

新居浜市史編さん審議会 第2回会議録

- 1 日 時 令和元年9月26日(木) 13時30分～14時20分
- 2 場 所 新居浜市役所6階 議員全員協議会室
- 3 出席者 寺田政則、末岡照啓、藤田達生、山田浩司、山内隆夫、吉本 拓、加藤京子（7名）
- 4 欠席者 3名
- 5 事務局 高橋 聡、鎌田真実（市史編さん室）
久葉裕可（広瀬歴史記念館館長）
- 6 傍聴者 2名

[発言要旨]

寺田会長

第1回の会議では、「市史編さん基本方針(案)」と「刊行計画(案)」について、事務局から提案をし、委員の皆様から色々ご意見をいただきました。

本日は、ご意見を踏まえて修正した案を再度提案させていただき、ご審議いただいて決定したいと考えています。

それではまず第1号議案「新居浜市史編さん基本方針(案)」について事務局から説明を求めます。

事務局

(以下、「新居浜市史編さん基本方針(案)」について、前回提案からの修正部分を中心に説明。)

寺田会長

ただいまの説明について、ご意見等ございましたらどうぞ。

山内委員

「地域の中にそれを物語る史料があまり残されてこなかったため、語れなかったというべきであろう」とありますが、史料がないというよりは、基礎調査が系統的にされておらず、発信もされてこなかった、それがひとつの要因だと思います。

そのことを踏まえ、全国的視野での調査ももちろんするのですが、その前に基礎調査をしっかりと行うということを書き入れた方が良いと思います。

また、[別編] 2巻に「新居浜太鼓台」とありますが、太鼓台は「新居浜太鼓祭り」の中で重要なものでありますが、祭りという神事の中で太鼓台を考えていくのが良いと思います。

それから3巻「絵図・地図」とありますが、史料はそんなにあるのですか。

藤田委員

絵図はかなりの量あります。寛永の国絵図、それを作る前の四国図等、江戸時代の早い段階から結構あると思います。

大きいものが多いので、全体を見せるだけでなく、新居浜の重要な部分は拡大して見えるようにしなければなりません。

末岡委員

別子銅山の絵図もたくさんありますし、近代になると測量図などもでてきます。

寺田会長

「新居浜太鼓台」を「新居浜太鼓祭り」にしたらというご意見はどうでしょうか。

事務局

この「新居浜太鼓台」というタイトルは、以前図書館が発行した本のタイトルが「新居浜太鼓台」だったので、それをそのまま使った訳ですが、山内先生がご指摘のように、祭りを主において、その

祭りの中の太鼓台、というとらえかたももちろんございます。そのあたりは民俗の専門家と相談して決めていく必要があります。今の段階ではこのままで、いずれ変わる可能性があるということをお願いしたいと思います。

山田委員

「新居浜太鼓祭り」として、太鼓祭りだけを取りあげる巻になるのか、「新居浜の祭り」として例えば大島の「だんじり」や「とうどおくり」を含めるのか、ということもあります。

寺田会長

本日のご意見を踏まえ、若干の修正はありますが、基本方針をこのように決定したいと思います。よろしいでしょうか。

委員（異議なし）

寺田会長

ありがとうございました。今後はこの方針に沿って、編集委員会、専門部会で作業を進めてまいります。

それでは、第2号議案に移りたいと思います。「刊行計画(案)」について事務局から説明を求めます。

事務局

(以下、「刊行計画(案)」について、前回提案からの修正部分を中心に説明。)

寺田会長

「刊行計画(案)」について、ご意見、ご質問等がございましたらお願いします。

藤田委員

市史編さん開始当初は、みんなで勉強しながら作っていくというところがあります。他の自治体史編さんに関わった自分の経験からも、初めから詰め込みすぎると疲れて次が続かなくなってしまうようなことがあったので、これくらいの計画で良いと思います。

山内委員

この表の中の調査のところでは基礎調査を行うととらえていいのですね。

藤田委員

このような市史編さんは、新居浜市では事実上初めてと言っていい。地元の調査もまだ色々出てきそうだし、全国レベルとりわけ東京などに集中している新居浜市関係資料、これが逐一全部拾っていく最初で最後のチャンスかもしれない。それをしっかりやろうとすれば時間もかかります。

山内委員

全国的な史料の調査というのは文献的な資料のことでしょうか。

藤田委員

文献以外のものもあるかと思いますが、私の場合は文献を中心に始めたいと思っています。

末岡委員

近代の文献資料は東京に集まっています。それと明治までの資料は県立図書館に入っているのを見ることができると思います。市には行政文書もかなり残っているようなので、それを調べるだけでもかなりのボリュームがあります。

もうひとつは、市や県が実施した統計資料です。これは事務局の方で早めに集めて欲しいと思います。

山内委員

建物調査もしっかりしていきたいです。

末岡委員

建造物は県で報告書を作っているのですが、そこに漏れているものがないか、新居浜地域において特徴的なものがほかにもないかを調査することになります。新居浜には近代建築が多く、別子銅山との関係、関西との関係、文化の導入とか、さまざまな視点からみることができます。

山内委員

県で作っているという建造物の報告書というのは、県史を作る時に新居浜市も含めて県内の調査をしたということでしょうか。

末岡委員

県教育委員会で過去に近代和風と近代化産業遺産の調査報告を出しています。その後、発見されたものや、広瀬邸のように報告書が出たものもあるので、一度そういうもの全体を集めて組みなおしてみたいということです。近代化産業遺産については過去20年の蓄積があります。

考古の分野では何かありますか。

山内委員

これまでの調査は、残念ながら点で終わっています。線から面にしていくには蓄積が足りないと思います。

寺田会長

ほかにご意見がないようでしたら、第2号議案の「刊行計画」については、この案をもって決定ということでよろしいでしょうか。

委員（異議なし）

寺田会長

ありがとうございます。

市といたしましても、必要な予算措置をしながら、事業を着実に進めてまいりたいと思いますので、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

何かほかにご意見があればよろしくお願いいたします。

藤田委員

別子銅山調査、塩田調査、戦争体験調査は大変重要な調査だと思われるが、関係者の年齢が上がっており、聞き取り調査を早急におこななければならないと思っています。

吉本委員

新居浜史談会で古文書解読をしているが、今年4年目で30名くらいの会員がいます。

古文書はそのままではなかなか読めないもので、読めないと面白くないので、なるべく現代文に訳せれば良いと思います。その史料の歴史的背景を説明して、理解してもらえるように講演会、学習会等を継続的に開いていただきたい。

藤田委員

愛媛県史にも史料がたくさん載っているが、市民にはわかりにくい。

解説を入れて市民にわかりやすいようにしていかなければならないと思います。

末岡委員

自治体史編さんでよく問題になることです。

史料を市民にわかりやすくするために読み下しにしたらどうか、解説したらどうかという市史もあります。一方で、それをするとは解釈が入るから、元のままの姿でないと史料集としてなりたないという意見もあります。この問題は全国で起きています。

市民向けには本編とは別に「市史編さん紀要」のようなものを出して、そこでわかりやすく資料解説をする方法があります。講演会や企画展なども並行して行うと良いと思います。

市史本編は永久に残る史料なので、一般には読めなくても、原文のままで史料として長生きできることを考えたいところです。

寺田会長

ありがとうございます。事務局から何かありますか。

事務局

今後のスケジュールでは、まず第1専門部会の立ち上げが最初にくると思っています。

遅くとも年内に一度集まって、調査や担当の範囲などを具体的に協議してまいります。

他の部会も順次立ち上がっていくと思いますが、民俗や自然科学のいくつかの分野については、どなたにお願いできるのかまだ決まっていないところもあります。できるだけ早く詰めていきたいと考えています。

寺田会長

本日の審議はすべて終了いたしました。

市史編さんは昭和12年の市制施行時から初代白石市長の構想にあり、昭和16年あたりから資料の収集も始めていたようです。ところが、その資料は昭和25年の庁舎火災ですべて焼失したということでございます。

市政施行時の市長の声明文を読みますと「われら市民は、既往にかんがみ、将来に処せねばならぬ。」つまり「私たち市民は、過去から学ぶことで、将来を築いていかなければならない」と表明されております。今回の市史編さんにおいても、こういった先人の思いを受け止め、しっかりと成果を残してまいりたいと思いますので、今後とも一層のお力添えをよろしく願いいたします。

これにて第2回審議会会議を終了いたします。